

2018年度 第3回・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議

議事概要

1 日時：2019年2月12日（火）14：00～16：00

2 場所：中部地方環境事務所第1会議室

3 出席者：

（委員）

氏名	役職	所属
伊藤 恭彦	副学長	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科
杉浦 真理子	代表取締役	株式会社アクト
戸成 司朗	CSR アドバイザー (共同代表理事)	住友理工株式会社 (NPO 法人中部プロボノセンター)
古澤 礼太	事務局長 (准教授)	中部 ESD 拠点協議会 (中部大学国際 ESD センター)
松本 謙一	ESD コーディネーター (教授)	北陸 ESD 推進コンソーシアム (金沢大学)
水谷 瑞希	助教	信州 ESD コンソーシアム (信州大学教育学部)
永井 均	課長	中部地方環境事務所

※彦坂委員は、都合により御欠席

（事務局） 一般社団法人環境創造研究センター 福井理事長、清本事務局長、原、富田
（中部地方環境事務所）西田主査

4 議事次第

- ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
- センター業務の実施報告
 - ESD ダイアログ、ESD ネットワークフォーラムの開催結果について
 - 「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの作成について
 - チェックリスト掲載 ESD/SDGs の広報ツールについて
- センターの次年度展開案
 - チェックリストの試行的活用（広報ツールの頒布）と改善
 - その他（ダイアログ等催事、情報発信・広報関係、本企画運営会議の開催について）
- 意見交換
- その他
- 閉会

5 会議資料

- 資料1：（資料2～5の）議事要点及び結果報告概要等のまとめ
- 資料2：第2回 ESD ダイアログの開催結果報告
- 資料3：第3回作成WG議事概要
- 資料4：【事業所 SDGs 版 Vr.1.20】ESD のための SDGs チェックリスト（記入例）
- 資料5：ESD のための SDGs チェックリストパンフレット（【一般向け／基本段階版チェックリスト】）
- 参考資料1：2018年度の EPO 及び ESD センター業務の実施状況
- 参考資料2：第5期事業計画
- 参考資料3：EPO 業務「活動見える化プログラム」

6 議事録要旨

(1) ご挨拶

【永井委員】

- 中部地方 ESD 活動支援センターが一昨年開設されて1年半が経過した。また、センターの運営団体に変更になって1年が経過しようとしている。おおむね業務は順調に進んでいる。
- 本日は本年度3回目の会議であり、年度当初に予定されていた業務についての成果報告をさせていただき、次年度に向けた改善点等のアドバイスをいただきたい。



- 以後の議事進行は、座長である伊藤座長に一任。

(2) センター業務の実施報告

- 事務局が「資料1：(資料2～5の) 議事要点及び結果報告概要等のまとめ」「資料4：【事業所 SDGs 版 Vr.1.20】 ESD のための SDGs チェックリスト (記入例)」「資料5： ESD のための SDGS チェックリストパンフレット【一般向け/基本段階版チェックリスト】」の資料説明。

(3) 意見交換

【伊藤座長】

- 今年度開催のイベントについて、連携・協力等した委員のご意見をうかがいたい。

【松本委員】

- 第1回 ESD ダイアログに併催して北信越ユネスコスクール交流会を開催した。盛大に開催することができた。参加者からも、同じユネスコスクール同士で交流ができて良かったなどの感想をいただいている。

【戸成委員】

- 第3回 ESD ダイアログに登壇した。東海地方の企業3社による事例発表が良かった。中小企業がこれだけのことをやっているのかと驚いた。3社それぞれに異なるアプローチからの取組だった点も良かった。これらの事例をぜひもっと広めてほしい。

【水谷委員】

- 第2回 ESD ダイアログを、ユネスコエコパークをテーマにして志賀高原で開催した。以前からエコパークとユネスコスクールは連携した展開が可能であり、それにより得られる効果があると言われてきた。しかし、一緒に展開する機会は中々持つことができなかった。今回がその貴重な機会となり、注目もされた。ESD 全国フォーラムでも事例として紹介させていただき、ユネスコの小委員会などでも報告を行った。
- ESD とエコパーク、ジオパーク、世界遺産等との連携は良い観点であると考えている。ぜひ今後も継続して開催してほしい。

【杉浦委員】

- ESD ネットワーク地域フォーラムに参加した。参加者の年齢層は高かったが、色々な立場の人が参加していることに驚いた。ディスカッションでは、同じグループに法律関係にお勤めの方がいらっしやった。なぜ ESD・SDGs に興味をもたれたのかと不思議に思った。参加者の背景も聞けると良かったのだが。
- フォーラムでは、企業が戦略として SDGs を導入し、イメージアップなどに活用しているこ

とを知り、企業の動きの早さを感じた。また、企業には保護者が勤めている。教育は、学校だけではなく、社会全体で与えられるものなのだと思います。

【事務局】

- ESD ネットワーク地域フォーラムでは、伊藤座長にも登壇していただいた。その中のコメントで、企業のスピード感についての話があった。企業が SDGs を導入する背景には、儲かることにつながるからという理由がある。しかし SDGs にはそうでない部分もあり、取り残される部分も出てくるであろう。その部分を公共で支えていく必要がある。学校は文科省が指導要領に ESD を位置づけ、大企業はグローバル化ゆえに導入を急いでいる。しかし中小企業は遅れているとも感じている。

【伊藤座長】

- フォーラム参加者は多様で、水準も高かった。お互いの背景を伝え合って交流できるともっと良かったかもしれない。
- 多様な世代による交流を仕掛けるためには工夫が必要である。地域やユネスコスクールもそれぞれに頑張っているが、それぞれの中での交流になっている。

【古澤委員】

- RC主催で2月2日に開催した「SDGs フォーラム・中部サステナ政策塾 2018 年度成果発表・交流会」では、進行を若者世代に任せ、ディスカッションでは、世代分けをして実施するなどの工夫を行った。

【福井委員】

- フォーラムに参加した際、ディスカッションで自治体の人と交流した。ESD は従来、環境分野のものという色合いが強かったが、SDGs によって部局を超えた議論、境を越えた連携を行う必要が生じており、SDGs によって分野の拡がりを実感していると話していた。
- 人権問題など、国内でも取り残されている人は多い。SDGs で多分野から取り組むことにより、そうした問題への対応にも発展性が期待できる。また、従来の環境教育を超えると共に、さらに企業等もそこに加わることを期待したい。

【永井委員】

- 第3回ダイアログで中小企業が頑張っている事例が発表されていた。しかし、その中小企業は ESD・SDGs を認識せずに取り組んでいる。そういったケースでは、この後の議論のテーマになるであろうツールが活用されると良いのかもしれない。
- 先日、中部地方環境事務所が開催した「地球温暖化に関する中部カンファレンス」も参加者の7割が企業であった。企業の関心は高い。また、戸成委員が中心となって「一般社団法人中部 SDGs 推進センター」が設立されるとうかがっている。

【戸成委員】

- 2月22日立ち上げをリリースしたところ、記者会見を開くことになった。マスコミも、SDGs なしで経済界では立ち行かないことを認識しつつあり、大きなテーマになっていると認識しつつあるようだ。

【伊藤座長】

- 次に、「ESD/SDGs チェックリスト」について意見をいただきたい。

【戸成委員】

- 取組分野の欄を「事業活動」と「地域貢献」に分けたのはなぜか。

【事務局】

- 検討WGでも議論になった点である。取組分野欄をどういうアプローチのものにすると良いか検討した際に、ESD であれば地域貢献は避けられないという議論になり、二つに分けた欄を設けることになった。

【戸成委員】

- どちらも事業活動そのものであり、分ける必要がないのでは。取組項目欄の例示も重複するものが掲載されている。

【事務局】

- 資料 5 の【一般向け／基本段階版チェックリスト】は、SDGs のことを全く知らない人が使うという想定をしているため、この形になった。

【伊藤座長】

- 例えば、ボランティアで事業所周辺の清掃活動などを行っている場合に、それも SDGs につながるという気付きになるという想定か。

【事務局】

- 最も初心者向けのアプローチになるツールとして考えた。まずはこれで試してみてもうかがと考えている。

【戸成委員】

- 「ごみを減らす」が事業活動の欄では廃棄物関係が該当するとわかるが、地域貢献の欄では何が当てはまるのか。

【事務局】

- 地域での清掃活動や出前講座の講師などが行われていることを想定した。そういったことをこのチェックリストによって思い出すことにつながればと考えた。

【中部地方環境事務所】

- 四日市市主催の SDGs 講座で講師として招聘された際に、このチェックリストを試行的に活用した。企業の本業の中で SDGs につながる事業を抽出する作業をワークショップの中で行った。企業は環境活動などを本業以外の余力のある部分で取り組むという実態がある。そのためワークショップでも、このチェックリストを用いて SDGs とのつながりを抽出していく中で、本業以外の企業の取組においてもつながりを見つける気付きになっていた。

【古澤委員】

- 作成WGの中での検討で解決できなかった問題点もあったため、最終的に自分が考えて【事業所 SDGs 版 Vr.1.20】の取組分野の項目を作成した。一般の人にはわかりにくいかもしれないが、取組分野の根拠を気にする人もいるであろうと考え、経団連の企業行動憲章を基にして項目を作成することにした。憲章の 10 項目を解釈する形で 7 項目にし、「資料 4」の【事業所 SDGs 版 Vr.1.20】となった。
- 入口となる部分から出口となる分を矢印で示し、上の項目へいくほど本業に関わる項目になっている。個人ではなく、部署内で抽出作業等を行う必要があり、重いものになっている。

【戸成委員】

- 【一般向け／基本段階版チェックリスト】と【事業所 SDGs 版 Vr.1.20】の 2 種類とした理由は。

【事務局】

- 「資料 1」 p 15 に示したが、まず、基本段階版を用いて職員に SDGs への気付きを促し、職場内で紐付けのための検討を行い、次に事業所 SDGs 版を用いて目標設定やパフォーマンス管理等を企業のビジョンに基づいて作成・実施していく想定をした。このボトムアップの形式が ESD にもつながっていると考えた。
- また、基本段階版は NPO や学校などでも使ってもらえるものであり、社会人の気付きを重視したツールになっている。

【水谷委員】

- 従業員、つまりは市民教育のためのツールとして、どれだけ SDGs を意識して事業に取り組んでいるかといった教育ツールとしての側面を重視してほしい。また ESD としての意識変容も重視したツールにしてほしい。

- 地縁活動の事業者からグローバル企業まで、企業は様々あるため、「地域貢献」は「社会貢献」とした方が良いのでは。

【松本委員】

- 取組項目の「教育」は、事業活動欄と地域貢献欄で異なる例示が記載されている。「ごみを減らそう」は事業活動欄と地域貢献欄で同じ例示になっているが、こちらも変えてはどうか。または「ごみを減らそう」をどちらか一方にのみ記載し、一方は空欄にして自記入にするなど自由度を設けても良いのでは。
- ポイントの多い・少ないはあまり意味がないのでは。事業活動が俯瞰されることが重要なのであり、自分たちにとって「問題になっている分野」を認識することが重要である。

【伊藤座長】

- ゴール 16 に該当するものが「防犯」では違和感がある。企業であれば武器転用禁止や反社会勢力への提供の排除など、もう少し考えた項目になるよう検討してほしい。日本国内では、平和・公正の項目が地域規模のものになりがちであるが、国外では武器転用禁止などがあげられるようになっている。

【事務局】

- 検討します。

【松本委員】

- ゴール 1~17 は番号の順番通りの必要があるのか。企業側からみるとわかりにくい順番なのでは。

【事務局】

- 別途、EPO 業務で作成した市民活動を対象としたシート「参考資料 3」では違う並べ方をしている。

【松本委員】

- 確かに「参考資料 3」の方がわかりやすいし、該当するゴールを見つけやすい。

【伊藤座長】

- 1~17 の順番は、MDGs とのつながりから設定された順番になっていると思われる。
- ワークショップ等を行いながら作業をする前提であれば、1~17 のこの国際基準の順番が良いのでは。

【戸成委員】

- 169 のターゲットも別のゴールとの関連性があるなど、17 ゴールがきれいに分かれているわけではない。

【伊藤座長】

- SDGs は、例えば、環境と貧困が別のものではなく、つながっていると知ることのできるものである。

【永井委員】

- ごみ問題も、食品廃棄、産廃、プラスチック問題など、それぞれ何をするかによって該当するゴールが異なってくる。

【松本委員】

- 整理項目が別にあるとチェックしやすいのでは。

【事務局】

- 【基本段階版】は初心者向けを想定しており、敷居を下げることも重要である。次年度の改良ではその点についても検討していきたい。

【戸成委員】

- SDGs は 3 分の 1 が環境、3 分の 1 が人権、残り 3 分の 1 がその他と 3 分割されるが、3 分の 1 を占める人権は、日本国内の関心度が低い。国際的には関心度が高いということを織り

込んでおく必要があるだろう。SDGs は人権がベースになっていないと誤った方向へ行くおそれがあるとの意見もある。今後、改良していく中で、ぜひ検討していただきたい。

【杉浦委員】

- チェックリストは自分で記入していくものか。

【事務局】

- 何もない状態で記入作業を行うことは無理のようだ。ワークショップなど開催して誘導していく必要があるかもしれない。

【伊藤座長】

- 次年度のイベント開催について意見をいただきたい。今年度は ESD ダイアログを 3 回とネットワークフォーラムを 1 回開催しているが、開催には開催地などの何らかの縛りはあるのか。

【中部地方環境事務所】

- 中部エリアの中でバランスよく開催できると良い。テーマについては、ニーズに合ったものであれば問題ないと思われる。

【事務局】

- 地域からのニーズとして、北信越ユネスコスクール交流会との併催は次年度も実施できると考えている。

【戸成委員】

- 年配者ばかりでなく高校生たちが考えていることを発表できる場も設けてほしい。高校生も参加して大人と一緒に考える機会があると良い。

【伊藤座長】

- 先日開催されたユース大会の参加校のレベルは高かった。各高校に一人はスーパー高校生がいる。ぜひ現役世代の大人と高校生の交流の場を設けてほしい。

【事務局】

- 高校生のコンクールや発表の場などを検討したい。

【戸成委員】

- 現役世代、例えば企業の CSR 担当者と高校生が互いに考えていることを共有するダイアログが開催されると、大人は「高校生もすごい」、高校生は「大人も捨てたものじゃない」と考えてくれるかもしれない。

【杉浦委員】

- 若者が希望をもってディスカッションできると良い。
- 金沢開催の北信越ユネスコスクール交流会は参加者に地域的なバラツキなどがあるのか。

【松本委員】

- 北陸 3 県の中ではやはり金沢からの参加者が多い。富山の場合は富山県内のユネスコスクールの会合が別途で開催されている。

【古澤委員】

- 全国センターから地方センターに対する要望などは示されているのか。人権問題等への取組方に対し全国センターからの意向などはあるのか。

【事務局】

- 全国センターの方向性がよくわからない部分があり、確認するようにしている。地域 ESD 拠点を増やしていきたいという方向性はわかるが、その拠点が何を担っていくのかといったビジョンが曖昧に感じる。そのため、地方センター単位でできることをやっている。
- 地域 ESD 拠点は“国の”取組であるため一種のブランドとして活用されている。地域で活動する際に、地域 ESD 拠点であることを前面に出して説明すると、話を聞いてもらいやすくなると言っていた拠点がある。

【伊藤座長】

- 次年度の広報展開についてのご意見をいただきたい。
- SDGs に対する関心が高い今、チェックリストの公開やイベントの開催などは新聞、テレビなどにリリースしてほしい。

【杉浦委員】

- フェイスブックなど SNS はぜひ展開してほしい。

【伊藤座長】

- 環境活動に関連する画像をインスタグラムに投稿すると注目されるのでは。

【水谷委員】

- 全国センターから地方センターへ、さらに地域 ESD 拠点へと情報が集約されている。全国センターは公式HPも積極的に展開している。しかし、拠点の方向性など見えていない部分もあるようだが、今後は特にGAP後の議論が見えてくることを期待したい。
- センターの本業としての役割こそが重要であり、ブランド化などは副次的なものである。ぜひ情報を集約し、全国の動きなどもこちらに伝える役割を果たして欲しい。

(5) その他

- 次年度の企画運営会議の全2回開催を事務局が提案。
- 次回・次年度第1回会議を6月25日13時30分～16時30分で開催することを確認。

(4) 閉会の挨拶

【福井理事長】

- SDGs は模索段階であるが、ぜひ情報収集機能などを充実させて、オープンなプラットフォームを形成していきたい。

